



データ放送の可能性と試行錯誤

番組連動型サービスの魅力

データ放送には、テレビ番組に連動した情報を提供するサービスと独立型のサービスがある。今回は番組連動型のサービスについて紹介しよう。

料理番組を例にとると、番組連動型サービスではテレビ放送での調理の進行と同時に、データ放送でレシピや材料などに詳しい情報を入手できるようになる。プロ野球中継では試合中にプレーヤーの成績や対戦相手との相性など、ドラマでは出演者が着ている服や使用されている家具を扱っている店の情報など、番組内容に関連した情報をデータ放送から入手することが可能になる。

これまで、テレビ放送では番組関連の情報は多く提供されてきたのだが、視聴者が好きなきに、詳細なデータを入手できるようになるということだ。

連動型サービスでは、テレビ番組に関連した情報を流すことにより、番組自体に付加価値を付けて、広告媒体としての魅力を高めることを目的としている。たとえば、クイズ番組の解答をその場で視聴者から募って正解者には商品が授与されるようにしたり、ドラマの出演者が着ている衣装や撮影に使ったレストランに関する情報がその場ですぐに照会できたりという具合だ。視聴者にとっては、知りたい関連情報をその場で手に入れることができれば便利なのは確かであり、データ放送による連動型サービスで視聴率がアップするという実績が示せれば、テレビ局としてはスポンサーに対して広告料の上積みをお願いすることもできるようになるはずである。

また、CMの枠内では商品名などの限られた情報しか流すことができないが、広告放送と連動したデータ放送が可能になれば、視聴者は詳細な商品情報を入手できるようにもなる。スポンサーにとっても、データ放送の機能を活用することで、視聴者の反応も確認できるようになるため、将来的にはワンツーワンマーケティングなどへの発展が期待できることになろう。



E-NEWSの失敗

E-NEWSは、専用の携帯端末向けの有料電子新聞として、フジテレビの電波を使って新聞記事を家庭に届けるというコンセプトで、1996年の7月より1000件のモニターを対象として実験を開始した。

そのサービス内容は、1日1回早朝(午前0時~6時)に各家庭に設置された据え置き型の受信端末に記事などが送信される仕組みによって、ユーザーは据え置き機から携帯端末部分を取り外して持ち歩き、好きなときに好きな場所で新聞記事を読めるというものだった。当初は端末価格が39,800円、加入料金が5,000円、月々の利用料金が1,350円と設定されていた。

ところが、ニュース内容の更新が1日に1回しかないということで速報性に欠けており、携帯端末も一覧性や検索性という機能を持ち合わせていなかったこともあって、紙媒体の新聞と比べて優位性を発揮するには至らず、加入者数も伸び悩んでしまい、結局は1997年の3月末で有料サービスは中止となってしまった。

事業主体も1997年の4月からはフジテレビに業務が移管されるに至り、端末機の有償での回収を図るなど、事業の撤退が進められる結果となってしまった。その後は新たに、インフォシティが開発したビットキャスト方式によるデータ放送に取り組んでいる。

考えようによっては、フジテレビとしてはE-NEWSの失敗という貴重な経験をするのができたわけであり、そのことは確実に「e放送」時代に他社が持ち合わせない強みとして発揮されるに違いない。アナログのデータ放送の位置付けが試行的なものである以上、まさに「失敗は成功の母」となりうるのである。現在は上の画面のようにビットキャスト方式で放送中である。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp